

PRESS RELEASE

2023年7月3日
株式会社インターネットイニシアティブ

IIJ、7月から「白井データセンターキャンパス」2期棟の運用を開始

--急拡大するAI需要向けなど多様化するコロケーションニーズに対応
併せてカーボンニュートラルデータセンターへの取り組みを加速--

当社は、自社データセンターの「白井データセンターキャンパス」(千葉県白井市、以下白井 DCC)において、2022年5月から増設を進めていた2期棟の運用を、2023年7月より開始いたしました。白井DCC2期棟は、エリア敷地面積約8,000㎡、最大受電容量10MW(メガワット)、1,100ラック規模の収容力を有します。今般、そのうちの約50%のラックが提供可能になり、2024年2月には100%のラックが提供可能になる予定です。

白井DCC2期棟では、需要が拡大している自社サービス向け設備の収容スペースを拡張するとともに、プライベートクラウドを運用する企業やSI事業者、またAI基盤などを設置するクラウドベンダーやコンテンツ事業者、さらに高い省エネ性能の再販用スペースを必要とするデータセンター事業者などの多様化するコロケーションニーズに対応します。

■ 白井DCCの設備概要

	1期棟	2期棟
立地	千葉県白井市	
全体敷地面積	約40,000㎡	
収容規模	約700ラック	約1,100ラック

➤ 白井DCCの詳細は以下サイトをご覧ください。

<https://www.ij.ad.jp/datacenter/tech/ijdc/shiroidcc.html>

■ 2期棟開設の狙い

白井DCCはIIJのクラウドやネットワークサービスの基盤設備が集約されている拠点の1つであり、昨今のICT需要を背景としたIIJサービスの利用増加を受け、サービス基盤設備の拡張用ファシリティとして2期棟の増設が進められてきました。また、近年、受電容量が数十MWを超える規模のハイパースケールデータセンターの開設が相次いでいますが、これらは主にメガクラウドサービスプロバイダー向けであり、それ以外のサービス事業者や企業のコロケーション・ハウジング向けのデータセンター設備は供給が不足している傾向にあります。そのような需要に応えるため、白井DCC2期棟は、プライベートクラウドを構築する企業・SI事業者や、AI基盤などを設置するクラウドベンダー・コンテンツ事業者、高い省エネ性能の再販用スペースを必要とするデータセンター事業者など、多様化するコロケーション需要に対応します。

また、データセンターで利用されるサーバのCPUの最大消費電力(TDP:Thermal Design Power)が今後300Wを超えると公表されていることや、急拡大する生成AIのデータ処理に必要とされる、大量の電力を消費する画像処理装置(GPU:Graphics Processing Unit)搭載サーバの需要も増えること見込まれることから、10~20kW/ラックの電力需要に対応します。

さらに、2022年に導入された省エネ法のベンチマーク制度では、データセンター業が目指すべきエネルギー効率として「PUE(※)1.4以下」という水準が示されたほか、2023年度に非化石エネルギーへの転換措置が新設されたことやRE100で追加性の高い再エネの普及を促すために技術要件が改定されたことなどから、データセンターは省エネおよび再エネ利用の取り組みがこれまで以上に求められます。白井

DCC2 期棟においても、IIJ グループが従来培ってきた省エネ技術を結集することに加え、新しい技術の導入実験、技術開発を通じてカーボンニュートラル化を積極的に推進するとともに、お客様の脱炭素化を支援してまいります。

(※) PUE (Power Usage Effectiveness) はデータセンターのエネルギー利用効率を示す指標で、値が小さいほど IT 機器以外の装置による電力消費の割合が低いことを示します。

■ 特徴

提供電源(ハウジングサービスの場合、1 ラックあたり)

230V30A を基本とし、ご要望に応じて 100V30A も提供可能です。

※最大で 1 ラック 20kW 程度まで拡張可能(近隣ラックの電源利用状況によっては制限があります。)

主なカーボンニュートラルへの取り組み

- ・外気冷却空調方式
- ・効率的に空調搬送できる「壁吹き出し空調」
- ・大容量三相 4 線式 UPS
- ・リチウムイオン蓄電池を活用した空調電力のピークカット・ピークシフト
- ・蓄電池やオンサイト太陽光を活用したバーチャルプラント事業への参画
- ・卸電力取引市場からの非化石証書の直接調達
- ・電力需給マッチングプラットフォームの実証事業

データセンター運用業務の自動化

1 期棟より導入している自動受付システムをはじめとするデータセンター運用業務の自動化・システム化により、オペレータの大幅な増員なく、2 期棟を含めた運用を可能としています。

ネットワークサービスとの高い親和性

IIJ の各種ネットワークサービス、クラウドサービス設備と直結できることに加えて、インターネットエクスチェンジ (IX) サービスである JPNAP の提供拠点が白井 DCC に設置されていることから、国内外のコンテンツ事業者やインターネット接続事業者との相互接続も実現します。白井 DCC のある印西地区はデータセンターの集積地として注目されており、各種クラウドサービス、近郊データセンター等と接続するネットワークの HUB 拠点としてもご利用いただけます。

■ 白井 DCC 俯瞰図



※白井 DCC2 期棟は右手奥の建物です。

IIJ では今後も、ICT 業界におけるカーボンニュートラルの潮流の先端を歩むことを目指し、カーボンニュートラルへの取り組みを積極的に推進するとともに、旺盛なデータセンター需要に応えるべく、基盤拡張を進めてまいります。

報道関係お問い合わせ先

株式会社インターネットイニシアティブ 広報部 荒井、増田

TEL : 03-5205-6310 FAX : 03-5205-6377

E-mail : press@ij.ad.jp

URL: <https://www.ij.ad.jp/>

※本プレスリリースに記載されている社名、サービス名などは、各社の商標あるいは登録商標です。